

平成 29 年度

健康部

保健所の運営方針

<健康部 保健所の構成>

保健企画課、保健衛生課、保健予防課、保健センター

<担当事務>

- (1) 健康増進に関すること。
- (2) 医事及び薬事に関すること。
- (3) 食品衛生・環境衛生に関すること。
- (4) 狂犬病予防、動物の愛護及び管理に関すること。
- (5) 感染症及び難病の対策等に関すること。
- (6) 精神保健に関すること。
- (7) 母子保健に関すること。

<部の職員数>H29年4月1日現在

正職員	126名
再任用職員	-名
任期付職員	1名
非常勤職員	61名
合計	188名

※他団体等への派遣職員、臨時職員を除く

1. 基本方針

保健所では、妊娠・出産から子育て期、さらには成人・高齢期まで切れ目なく、全ての市民の健康づくりに関わる取り組みを進めています。専門的には、地域の公衆衛生に関わる、医事・薬事、食品衛生、環境衛生、感染症予防、精神保健、難病支援等のさまざまな業務を担っています。

第5次枚方市総合計画に掲げる「公衆衛生や健康危機管理が充実したまち」の実現に向け、市域の保健衛生行政の中核となり、市民の健康増進と生活の安全・安心の確保に努め、総合的な保健衛生サービスを推進することにより、市民の健康寿命の延伸をめざします。

2. 重点施策・事業

(1) 保健医療・公衆衛生分野における災害対策

目標	近年の災害においては、保健医療・公衆衛生分野での対策の重要性が言われ、DMAT（災害派遣医療チーム）や DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）等、被災地支援・受援体制の構築が進められています。被災自治体においては、医療の提供に係るコーディネートをはじめ、被災者の健康面のフォローや衛生面の管理・監視等、保健所が担う役割は大きく、本市地域防災計画では、地域災害医療本部を保健所に設置しています。そこで、災害時において、保健所が中核となって、市域の保健医療・公衆衛生に関する活動に適切かつ円滑に取り組めるよう、体制の整備を図ります。
取り組み	関係機関等と連携し、災害対策に係る訓練を実施するとともに、マニュアルの検証・見直しに取り組めます。
	平成 29 年度当初予算：400 千円

(2) 薬物乱用防止啓発の推進

目標	平成 27 年 11 月に小学生が大麻を吸引するという事件が発生する等、若年層への薬物汚染が急速に広がり大きな社会問題となっており、青少年による薬物乱用の根絶及び規範意識の向上は重点課題となっています。 そこで、青少年・若年層に対して違法な薬物の危険性について正しい知識の普及をめざして啓発活動を行います。
取り組み	小学生・中学生を対象に薬物乱用防止教室に取り組む各団体と情報交換・情報共有を行うとともに、連携・協力体制の強化を図り、薬物乱用防止啓発活動を行います。 平成 29 年度当初予算：573 千円

(3) ヘルシーメニューの開発支援

目標	日々の生活の中で、栄養・食生活分野は、がん、心疾患、脳卒中、糖尿病等多くの生活習慣病との関連が深くなっています。一方、本市が実施したアンケート調査によると、外食への依存傾向がみられました。そこで、食を取り巻く環境の改善が食生活面からの個人の健康づくりにつながることから、飲食店に対して啓発を行い、ヘルシーメニューの提供を通じて健康づくりの推進を図ります。
取り組み	枚方市独自で設定する「ヘルシーメニュー基準」に基づき、ヘルシーメニューの開発及び提供を行います。市民が利用しやすいよう、冊子やリーフレットを作成し、広く周知を行います。 平成 29 年度当初予算：1,789 千円

(4) 食中毒など健康危機事象発生 of 未然防止

目標	安全で快適に生活できるよう、食品関係施設や理美容所などの生活衛生施設における衛生水準の向上を図り、健康危機事象発生 of 未然防止をめざします。
取り組み	食の安全・安心への関心が一層高まる中、食品等事業者 to HACCP (ハサップ) による衛生管理の手法を普及・啓発し、食中毒などの健康危機事象発生 of 未然防止に努めます。 平成 29 年度当初予算：15,159 千円

(5) こころの健康づくりの推進

目標	身近に個々の相談ができる体制づくりや、疾患の初期段階から適切な相談や支援につなげるためのネットワークづくりを行うことでこころの健康づくりの推進を図ります。
----	---

取り 組み	専用電話による「こころの健康相談」及び、モバイル機器を活用したメンタルチェックシステム「こころの体温計」、精神保健講演会等を通して、こころの健康づくりの啓発に努めます。また、関係機関との連携や精神科医師による相談等を通じ、相談や支援を行うとともに、疾患の初期段階から適切な相談や支援につなげるためのネットワークづくりを行います。
	平成 29 年度当初予算：3,788 千円

(6) 難病対策の推進	
目標	難病患者やその家族が地域で安心して過ごせる在宅療養環境を整備します。
取り 組み	健康医療都市ひらかたコンソーシアム参画団体で構成する枚方市難病対策分野神経難病対策医療ネットワーク部会を通して、関係団体と情報を共有し、在宅難病患者が抱える地域医療の課題に取り組みます。
	平成 29 年度当初予算：6,567 千円

(7) 妊産婦への支援の拡充について	
目標	安心して楽しく子育てできるまちの実現に向け、妊娠・出産から子育て期にわたる切れ目のない支援策を充実させます。
取り 組み	産後うつの予防や新生児への虐待予防等を図る観点から産婦健康診査にかかる費用を助成し、健診の結果、支援が必要な母子への心身のケアや育児サポート等を行います。また、妊娠届出時に交付する母子健康手帳のデザインを4種類準備し、妊婦やその家族が好きなデザインから選べるようにします。
	平成 29 年度当初予算：19,585 千円

(8) 市民の健康を支える地域拠点の整備	
目標	赤ちゃんから高齢者までが健康で生き生きと暮らすことができるまち、安心して子育てできるまちづくりをめざします。
取り 組み	より身近な地域で市民が気軽に相談でき、妊娠・出産から子育て期、さらには成人・高齢期までの切れ目のない支援を行うことができる地域拠点を、北部支所内に整備します。
	平成 29 年度当初予算：12,658 千円

(9) 各種がん検診の推進	
目標	がんを早期発見し、適切な治療に結びつけられるよう、引き続き、各種がん検診について受診率向上や精度管理の取り組みを進めます。

取 組 み	無料クーポン券の送付や、がん検診受診率アップキャンペーンの取り組みを継続するとともに、若年層での発症リスクが高い子宮頸がん検診については、国立がん研究センターが受診を促すためにマーケティングの考え方に基づいて作成された受診勧奨圧着はがきを送付します。また、平成 29 年 4 月から 50 歳以上の市民を対象に胃がん検診内視鏡検査を開始します。
	平成 29 年度当初予算：444,787 千円

3. 行政改革・業務改善

◆業務改善のテーマ・目標

テーマ	取り組み内容・目標
相談業務の検証	「ひらかた健康ほっとライン 24」の設置に伴い、所内で実施している既存の各種相談業務について、相談件数の推移などを踏まえ、運営方法等の検証を行います。
犬猫の保管等の業務の見直し	犬猫の殺処分ゼロをめざし、無償譲渡の取り組みを促進するとともに、犬猫の保管等の業務のあり方を見直します。

4. 予算編成・執行

- ◆妊産婦への支援の拡充のうち、産婦健康診査については、母子保健衛生費国庫補助金を、市民の健康を支える地域拠点整備事業については、子ども・子育て支援交付金（国・府）を活用し、効果的な事業の運営を図ります。
- ◆感染症予防対策、難病患者の在宅療養支援、がん検診の推進などの取り組みについて、感染症予防事業等国庫負担（補助）金を活用し、効果的な事業の運営を図ります。

5. 組織運営・人材育成

- ◆より質の高い地域保健サービスが求められる中、保健師の専門能力の向上を目的に、保健師人材育成ガイドラインに基づき、保健師の組織的・計画的な人材育成の体制を構築します。

6. 広報・情報発信

- ◆FM ひらかたを通して市民の暮らしや健康に役立つさまざまな情報を発信するとともに、放送内容をホームページに掲載することで市民に広く周知を行います。